

## 奨励賞

【総合的な学習の時間】

# 平和な世界の構築を目指す 教科横断的な探究学習

大阪府豊中市立第七中学校  
(元大阪教育大学附属池田中学校)

うちかお く ひで み  
内兼久 秀美

大阪教育大学附属池田中学校

なかだ み き にしひら ゆうすけ たなか せい や  
中田 未来・西邑 悠佑・田中 誠也

## 実践の概要

本研究は、大阪教育大学附属池田中学校3年生生徒(計143名)に対して、令和4年10月～令和5年3月に、社会科・英語科・音楽科・総合的な学習の時間に取り組んだ計26時間の教科横断的探究学習の実践研究である。

本研究では3つの教科の知識を統合し、総合的な学習の時間に平和を願う歌を4人1組で創作した。そして、一番多くの人の心に届いた楽曲について卒業式の歌として合唱したり、台湾の姉妹校の生徒に楽曲を披露したりした。

## 論文内容の紹介

### 1 | 研究の目的

急速なグローバル化が進む現代社会において、

平和な社会を築くためには、自国の平和にのみフォーカスするのではなく、地球規模で考え、自身にできることを行動に移すことが求められている。10月に生徒対象(n=133)に実施したアンケートによると、「グローバルな視点で平和な世界を作るためにあなたが行動していることは何か」という問いに対し、「募金」「フェアトレードの商品を買う」「自分と異なる意見を受け入れる」という回答が挙げられた一方で、約半数の生徒が「特になし」と答えた。このことから、「戦争はいけないことだ」と理解していても、実際の行動に結びついていない生徒が多くいることが明らかになった。

中央教育審議会答申(令和3年1月)では「芸術的な感性も生かし心豊かな生活や社会的な価値を創り出す創造性などの現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成について、文理の枠を超えて教科等横断的な視点に立って進めることが重要であり、(後略)」と述べられている。

そこで本校では、平和に対するの価値観を再構築することで、現代的な諸課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動しようとする態度を養うために、教科横断的な授業を実施した。

### 2 | 実践の詳細

#### (1) 社会科での取り組み

①平和・戦争に関する歴史上の出来事を学習す

実施時期	社会科	英語科	音楽科	総合的な学習
10月30日				単元目標、総括的課題、今後の流れ、学習前アンケート(1)
11月上旬	歴史的経緯や社会的背景 日本の難民受け入れ状況(2)		旋律分析(2)	
11月中旬	個人で平和を定義する(1) 班で平和を定義する(1)	平和に関する歌を味わう(3) 韻・音節について(1)		
11月下旬		個人で作詞(3) 4人班で作詞(2)		
12月上旬			創作の仕方(1)	個人で作曲(2) 班で作曲(2)
12月中旬	平和の定義、旋律、歌詞、工夫を書いたパンフレット作成(1)			
1月上旬				歌練習(1)
1月19日				クラス内発表(1)
1月27日				学年発表(1)
1月30日				振り返り(1)

図1 単元計画 ※( )内は授業数

- る。
- ②個人で平和の定義を考える。
  - ③平和の定義をグループで考える。

(2) 英語科での取り組み

- ①平和・戦争に関する英単語を4人班で協力して書き出す。
- ②平和に関する英語の歌 (Imagine, We Are the World, Heal the World) の歌詞から表現上の工夫 (韻・音節) や作詞者の思いを読み取る。
- ③音節の数え方について学習する。
- ④韻を踏んでいる単語を検索できるサイト (Rhyme Zone) や音節を数えられるサイト (How Many Syllables) を活用しながら平和の定義に合わせて歌詞を個人で作成する。
- ⑤教師のフィードバックを受けて、個人の歌詞を書き直す。
- ⑥4人班で個人の歌詞を組み合わせ、班の歌詞を作成する。

(3) 音楽科での取り組み

- ①無伴奏の混声三部合唱『Amazing Grace』を楽曲分析・演奏表現し、テクスチュアを理解を深める。
- ②ハ長調の音階を使ってまとまりある旋律をつくる。
- ③英語科の4人班で作詞した歌詞をもとにまとまりある旋律をつくり、クラス内発表をする。

(4) 総合的な学習の時間での取り組み

- ①音楽 (歌唱) による創作表現
- ②プログラム作成・クラス内発表
- ③学年コンサートの開催・卒業式での学年合唱

3 | 結果と考察

問い

「あなたは今、地球温暖化について活動や行動できることを考え、地球温暖化について深く理解し、温暖化の防止を啓発するポスターを制作

することになりました。」

- (1) どのように教科の知識を使いますか。
- (2) その教科のどのような知識や考え方を使いますか (複数選択している場合はそれぞれ記述してください。例 国語…○○の知識を、○○の場面で使う)。

回答の変容

事前	
英語	ポスターを書くことに偏っている
社会	地球温暖化の現状等の知識を得る
理科	地球温暖化の原因等の知識を得る

↓

事後	
英語	世界の人の考えや現状を知るために英語の資料を読む
社会	国際的な解決の方法を提案する
理科	防止のための活動を考える、解決策を考える

アンケートの結果より、教科横断的に学習することで生徒はより国際的な視野をもち、課題を解決しようとする態度が養われたことが分かる。

(生徒Aの考え)

問い：この学習を通じて、自身が新しく身につけた知識や概念などを今後の行動にどのように活かすか。

自分がこの単元の活動を通して学んだ平和に対する価値観や平和の定義などは将来社会で活躍していく際に生かしていきたいと考えた。また、私は現在の社会問題から今後取り組んでいくべき目標を設定した際に、批判的思考スキルが成長したと感じた。さらに、今ある課題の解決策を生み出すために、複数の教科で学んだことを活用することができるようになったと思う。この単元を通して、成長したスキルを今後の学生生活や社会に出たときに活用したいと

考えた。これから、何か問題が起こるときも、既習の知識や技能で乗り越えていくことができるのではないかと考えた。

生徒の記述したワークシートより、平和に対するの価値観を再構築することで、現代的な諸課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動しようとする態度が養われたことが明らかになった。これらは、中学校学習指導要領「総合的な学習の時間編」に目標として示されている資質・能力の育成に大いに役立つ。今後も教科横断的な学習が日本の中等教育における学びに応用できるよう研究成果を蓄積することが望まれる。

#### 4 | 参考文献

##### 英語科

How Many Syllables. How Many Syllables. <https://www.howmanysyllables.com/> (November 5, 2022)

Michael Jackson (1991) Heal the World (November 5, 2022)

Michael Jackson and Lionel Brockman Richie, Jr. (1985) We are the World (November 5, 2022)

Rhyme Zone (2016). Data muse. <https://www.rhymezone.com/> (November 5, 2022)

##### 社会科

TED (2016/12/06). Islamophobia killed my brother. Let's end the hate. <https://www.youtube.com/watch?v=XiEQmcZi8cM>

The Pulitzer Prizes (n.d.) Columbia University. <https://www.pulitzer.org/prize-winners-by-year> (November 10, 2022)

「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会「フォンの物語」『まんが クラスメイトは外国人 多文化共生20の物語』明石書店、2009年、pp.38-45

##### 音楽科

John Newton (n.d.) Amazing Grace (November 5, 2022)

Kawai Computer Music (n.d.) On-pu Note App Tutteo (n.d.) Flat. <https://flat.io/ja> (November 15, 2022)

##### 総合的な学習の時間

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間 平成29年7月 文部科学省

##### 奨励賞

【保健体育科】

## がんの正しい知識を得て、 望ましい生活習慣を送れる 子どもの育成

愛知県豊橋市教育委員会

き どころ み わ  
城所 美和

##### 実践の概要

保険のCM等で「2人に1人ががんになる」と言われるほど、がんは身近な病気になってきている。その反面、子どもへの意識調査からは、がんのことをほとんど知らない実態が浮かびあがった。さらに、がん教育に関しては、平成29年3月告示の学習指導要領の保健分野に「がんについても取り扱うものとする」という一文が付け加えられた。こうした世の中の動き、子どもの姿、国の動向を受けて取り組んだ問題解決的な授業実践である。

## 論文内容の紹介

### 1 | 研究の構想

【仮説】 中学2年生の保健学習で、成育歴を考慮しつつ、がんに対する問題意識に沿った単元を構想し、ひとり調べとかかわり合いで学習を進めれば、以下の子どもが育つだろう。

- ①がんについての正しい知識を得る（知識）
- ②健康や命の大切さを考え始める（思考）
- ③今からの生活習慣が予防と気づく（判断）
- ④生活を変えていこうと動き出す（態度）

【抽出生徒】 事前調査で「もし治ったら、その人の生き方を変えるきっかけになる」と記述した幼少期に急性骨髄性白血病で入院経験のある生徒Aの変容を追いながら検証する。

### 2 | 研究の実際

#### (1) 意識をほりおこす

がんへの意識を高めるため、保健室前がんに関する資料を連載掲示した。「祖父はがんで亡くなった」「がんは治らないの？」等、がんの話で訪れる子どもが日ごとに増えた。

#### (2) 教材と出合わせる（第1時）

小学6年生で骨肉腫、余命半年と宣言されながらも必死に生きた猿渡瞳さんの作文と出合わせた。「生きたくても生きられなかった仲間のメッセージを伝えることが私の使命」の一文が子どもたちの追究への思いを高めた。

#### (3) 問いを生む（第1時：かかわり合いI）

話し合いでは、生徒Aが「院内学級と一緒に勉強していた子が、何人も亡くなって…」と言葉を選びながら自分の経験を語った。この言葉の重みが、追究意欲に拍車をかけた。

#### (4) 個人の問題追究（第2時：ひとり調べI）

個々に設定したテーマは8つ（①メカニズム、②治療、③精神衛生、④生存率、⑤種類、⑥予防、⑦原因、⑧健康診断）に分類され、自らの問題意識で調べ学習に入っていった。

#### (5) 追究を見直す（第3時：かかわり合いII）

生徒Aは、このかかわり合いの中で、ひとり調べの「食事の欧米化が、がんの原因と関係があるのではないか」という疑問が解け、「やっぱり生活習慣が大切」と結論付けた。

#### (6) 学級の問題追究（第4時：ひとり調べII）

生徒Aは、がんの原因から予防法を追究し、「健康な生活のためには、運動する、寝る、食べる、笑う」という自分なりの考えをもった。その背景には自身の入院生活があった。

#### (7) 追究を見直す（第5時：かかわり合いIII）

「がんを予防することはできるのか」という話し合いで、生徒Aは「今からが大事」と語り、将来でなく、今から生活習慣を整えていくことの必要性を学級の友だちに訴えた。

#### (8) 学びを振り返る（第6時：ひとり調べIII）

生徒Aは「今回の授業で“がん”という病気の原因や予防のことを知れた。調べたことを生かして過ごしていきたい」と記した。

### 3 | 研究のまとめ

単元終了後、生徒Aが保健室に立ち寄り、「今ある命は当たり前ではないから、周りの命も自分の命も大切に生きていきたい」と語った。それは、自分の生活の中で、今からできることを考え始めた生徒Aの姿であった。

奨励賞

【外国語科】

## 英語力のギャップを超えて 学び合う生徒の育成を 目指して

三重県伊賀市立霊峰中学校

つじむら かずまさ

辻村 一将

実践後の考察からは生徒たちの成長や変容が十分に見て取ることができ、大きな成果を上げることができた。

また、JJSは在外教育施設という、ある種特異な環境に聞こえる教育機関ではあるが、「EFL (English as a Foreign Language) 環境下における英語教育」、「生徒間の英語力の格差」、「各家庭における英語教育に対する考え方の大きな相違」などのJJSの英語教育を取り巻く課題は、日本の英語教育の課題と類似する点が多く本実践がこれからの日本における英語教育を考える際においても十分に汎用性があると考えている。

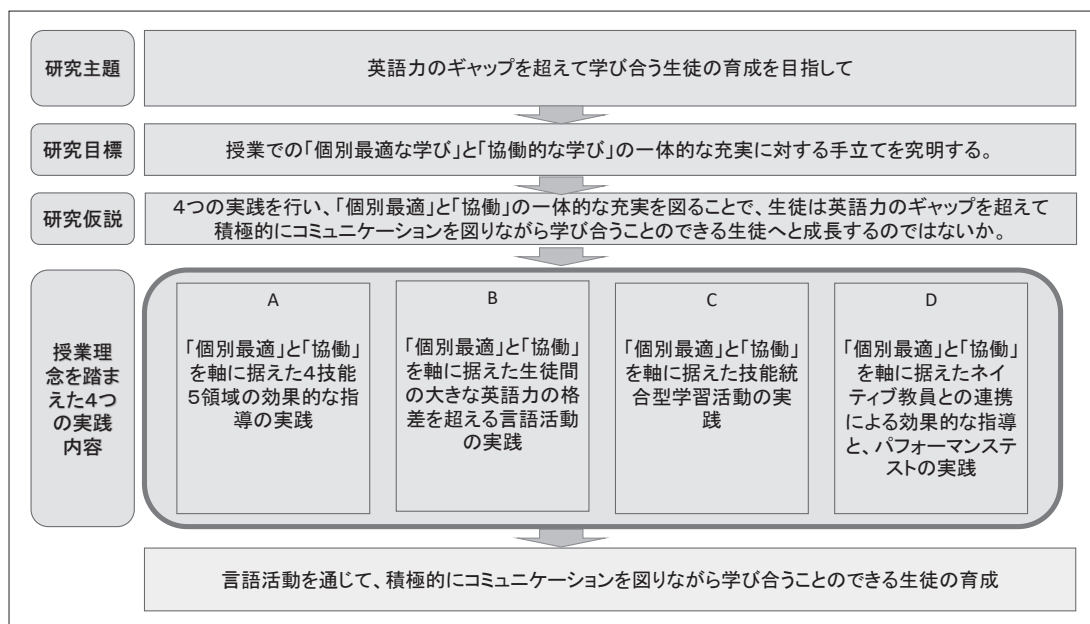
### 研究の概要

本研究は筆者の前任校であるジャカルタ日本人学校（以下、「JJS」）の中学部1・2年の生徒に対し、2022年度に行った英語科の実践研究である。

筆者は学習指導要領を根幹に据えた、「個別最適」と「協働」を軸とする4つの実践を行うことで、英語力のギャップを超えて学び合う生徒の育成を目指した。

### 論文内容の紹介

#### 1 | 研究構想図



## 2 | 研究仮説を検証する 4つの実践項目の実際

### 【実践A】

教科書の使用を原則とし、「個別最適」と「協働」を軸に据えた4技能5領域の指導を「ア（聞く）→イ（話す・やり取り）→ウ（読む）→エ（書く）→オ（話す・発表）」の順に指導することで効果的な定着を図った。また、返り読みをせずに英語の語順どおりに情報を処理するという指導を、ア～オの全項目において横断的に行った。

### 【実践B】

生徒間の英語力のギャップを超えて豊かに学び合わせるために、CLIL (Content and Language Integrated Learning) の概念を踏まえた教材を積極的に授業に導入した。

### 【実践C】

オーディエンスとのやり取りを大切にするアクティブリスニングの概念を取り入れた双方向型プレゼンテーションを、毎単元の最後のまとめとして位置付けて行った。また、その際にはICT機器も積極的に活用した。

### 【実践D】

年間計5回のパフォーマンステストを実施し、生徒の英語学習の目的の内発的動機付けを図った。また、テスト後には生徒たちに丁寧にフィードバックを行うことで、彼らの英語力と学習に対するモチベーションの向上を図った。

## 3 | 考察、及び成果と今後の課題

- ①各学期末の生徒による授業フィードバックの分析
- ②実力テストの結果分析
- ③パフォーマンステストの結果分析
- ④英検の結果分析
- ⑤学習活動中における生徒の活動の様子

上の5点から本実践における仮説の妥当性や効果を検証したが、数値や生徒のフィードバックの内容はどれも肯定的な要素が多く、仮説の妥

当性が十分に立証されたと言える。

## 4 | 最後に

この3年を振り返ると、通常は10年程かけて生まれる変化や改革などが一気に起こったような感覚に陥る。誰も経験したことのないような状況下で今までの経験を生かしながら授業をすることは容易ではなかったが、そんな筆者をいつも支えてくれたのは、困難な状況下でありながらもひたむきに学ぼうとする目の前の生徒たちの姿勢であった。彼ら無しでは本研究は成立しなかったと言える。

また、本研究の実践に当たり、支えてくださったすべての方々にも感謝したい。

最後に、JJSの生徒たちが将来世界に羽ばたき、英語を使用して様々な分野で活躍することを期待し、筆を置くことにする。

### 奨励賞

【総合的な学習の時間】

## 持続可能な社会の創り手の 育成を目指した教育課程の 改革

岐阜県郡上市立郡南中学校

みしまこうよう  
三島 晃陽

### 実践の概要

総合的な学習の時間を教育課程の中核に置き、多様な他者と協働して探究を進めていくことで、持続可能な社会に向けての一步が踏み出せ

る資質・能力の育成が図られている取組である。この取組を、カリキュラムデザインとカリキュラムマネジメントとの両面から考察し、好循環を生み出す要因をさぐりながら成果検証を行っている。



## 論文内容の紹介

### 1 | 研究の目的

本校がある岐阜県郡上市は、人口減少が加速度的に進んでいる。人口のボリュームが小さくなるだけではなく、人口構造が大きく変わることが20年後、30年後の深刻な問題となる。そこで、生徒が人口減少していく事実と、その未来に向けて地域や企業が動き始めている現実を知り、何ができるのか、どのように社会に貢献できるのかを自ら考え行動できるようにしていくことこそが責務であると考え。このような生徒の育成において、実社会・実生活の問題を取り扱う総合的な学習の時間を切り口にして教育課程を編成していくことが有効であることを明らかにすることを目的とした。

### 2 | 研究の実際

#### (1) カリキュラムデザインの取組

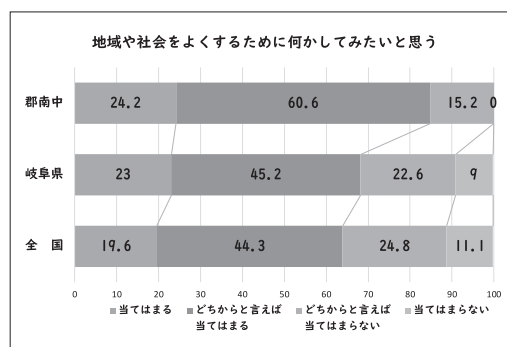
学習対象となる教材を具体的で発展的な教材である清流長良川を提示し、具体については職員が考えられるようにした。持続可能な清流長良川を目指し3年間の大きな探究課題を「SDGs×清流長良川」とした。次に、職員のカリキュラムデザイン力をつけるために、各探究のプロセスでの生徒の意識のスタートとゴールを考え、その意識にするためにどのような活動を仕組みればよいかの検討を重ねてきた。その活動は、校外での体験ができる「フィールドワーク」と地域のプロフェッショナルから学ぶ「出前授業」である。これらから本校のカリキュラムのアウトライン（詳細は本校のHPに掲載、右上のコードからアクセス可能）を作成している。

#### (2) カリキュラムマネジメントの取組

外部からの知見を取り込めるよう、地元企業や行政の方を地域コーディネータとして委嘱している。この方から、良質な体験の企画、多様な外部講師の招聘の助言を得ている。また、行政と連携を図ることで、郡上市が推し進める「ひと・まちづくり推進プロジェクトSDGs源流education」の実証校に認定され、体験等の活動費が保証されている。このシステムの構築により、3年生ではサイクリングツアーの商品化や、2年生では地元企業と商品開発を行い郡南マルシェの開催をすることができ、リアルな学びを実現することができた。

### 3 | 研究のまとめ

下のグラフは、令和5年度全国学力・学習状況調査分析の生徒質問紙(30)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の結果である。これは、総合的な学習の時間において生徒が地域での良質な体験、多様な他者とのリアルな学びを通して取り組んできたことが要因と考えられる。このような学びは、教育課程の中核に総合的な学習の時間を置いたこと、地域コーディネータが中心となり学校と地域とが連動して取り組めるシステムを構築したことによるものである。



奨励賞

【数学科】

## 21世紀型スキルを育成するSTEAM教育の実践

兵庫県甲南高等学校・中学校

むらかみ せんずい  
村上 仙瑞

### 実践の概要

GIGAスクール構想に伴い、1人1台のiPad教育が導入され、教育の幅が大きく広がり、従来難しかった数学教育目標や指導を設定できるようになった。数学の学びの中に「楽しさ」を取り入れてもっと躍動的に数学を学んで数学の学力をつけ、1人で学ぶことの多い数学の学習に、友達と解決して、協働学習の機会を与えたいと考えていた。学びの雰囲気をよくすれば、自ら数学を学ぶ生徒に育つ。1人1台のタブレットの環境が整ったことで、カリキュラムをしっかりと作りなおし、定期的に数学活用を入れることによって、数学を学ぶ意欲向上に手応えを感じた。

### 論文内容の紹介

#### 1 研究の目的

##### ①STEAM教育の実践

図形を活用したデザイン作りやプログラミングを中心とした美術(A)と数学(M)の教科融合を実践した。

##### ②21世紀型スキルの育成

学びの楽しさを感じさせるiPadの課題を課すことで、数学の授業内だけでなく、休み時間も友達と課題に取り組み、21世紀型スキルの育成につながると考えた。

#### 2 カリキュラム作り

私が数学教育で一番大事にしていることは継続的な指導である。「数学を好きにさせ、継続的な学習を習慣づけさせる」を育成するためにカリキュラムを練った。

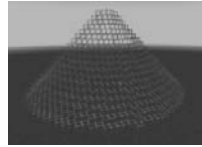
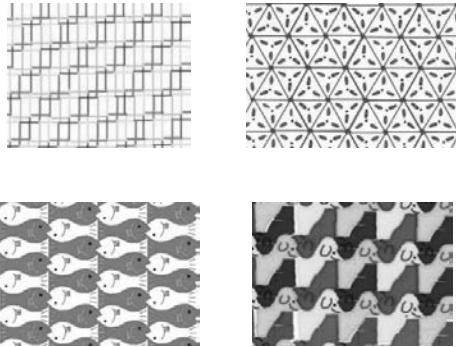
#### 3 授業の実践

これらの課題は授業内だけでなく、休み時間も積極的に友達と完成させるように促した。

数学活用		
図形の移動	日常生活の風景で線対称なものを探す	写真アプリ
	オリジナルの伝統模様を作る	MetaMoji ClassRoomを利用
	オリジナルのエッシャーの絵を作る	MetaMoji ClassRoomを利用
作図	GoogleMapを利用した作図	GoogleMapを利用
	鏡の見える範囲を作図(物理、保健(死角)の融合)	MetaMoji ClassRoomを利用
空間図形	直線と平面の位置関係	マイクラフトを活用、写真アプリ
	平面と平面の位置関係の写真をとる	
	投影図を作る	マイクラフトを活用
	平面を積み上げて立体を作る	マイクラフトのプログラミング

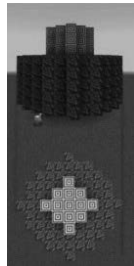
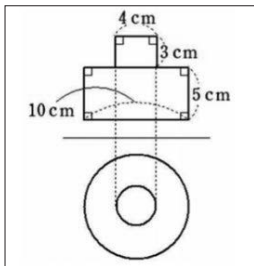
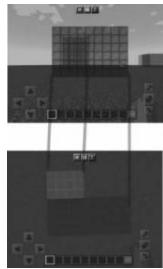
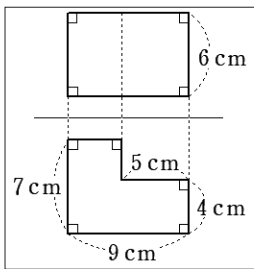


①オリジナルの伝統模様やオリジナルのエッシャーの絵 (Metamoji Classroomの活用)

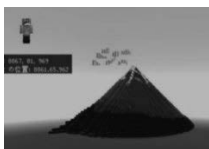


②マイクラフトの活用 (立体図形の活用)

(1) 投影図の立体復元



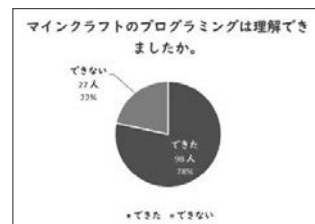
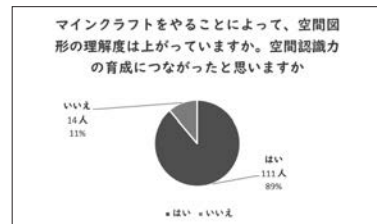
(2) 円錐や円柱をプログラミングで作った後、アート作品を作る。



## 4 | 実践の結果

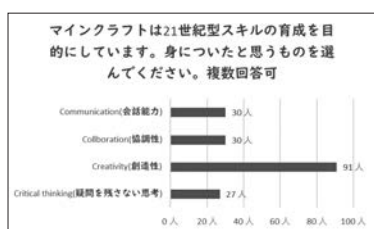
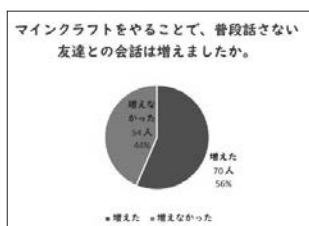
### (1) STEAM教育の実践の成果

プログラミング教育に関しては、理解できた人の割合も75%を超えている。プログラミングを理解し、楽しいと感じることが大事で、この目標は達成できた。また空間図形の定期試験の正答率が80%であった。アンケートからも空間認識力がついたと答えた生徒が89%もいることから、これは偶然の一致ではないと考える。



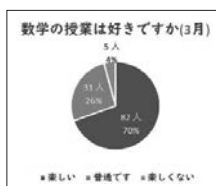
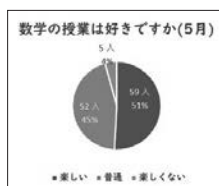
## (2) 21世紀型スキルの育成について

数学活用は、主にグループ学習で自由にさせた。少し説明しただけで生徒たちにコミュニケーションが生まれる。デザイン作りやマイクラフトであれば、授業中に理解できなくても休み時間に友達同士で解決しようとする姿が目立った。



## (3) 「数学を好きにさせ、継続的な学習を習慣づけさせる」を育成することの成果

年間継続的な数学活用と数学の問題集の課題を交互にあたえたことで、学習習慣が付き、休み時間に生徒が問題を考えるという光景をいくつか見るようになった。数学を好きにするカリキュラムを作れば生徒は自然に学び、課題も提出するという手ごたえを感じ、成果が得られた。



## 奨励賞

【社会科】

# 中学校歴史分野における 単元内自由進度学習の実践

宮城県加美町立鳴峰中学校

やちもりあいか  
谷地森 愛花

## 実践の概要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、中学校社会科（歴史的分野）において、自己調整学習の手法の一つである単元内自由進度学習を基盤とした単元開発と授業実践を通して一考察である。単元は、第2章「古代までの日本」3節「古代国家の歩みと東アジア世界」を扱った。中学1年生の授業実践、意識調査、及び取組状況の観察等を通して、その成果と課題を検証した。

## 論文内容の紹介

### 1 研究の目的

課題意識をもって主体的に学びと向き合い、自己の学びを調整しながら、対話を通して学びを深める力を育てるために、単元内自由進度学習を基盤とした社会科の授業づくりを通して、その実効性と有用性を探る。

### 2 研究の内容

#### (1) 単元開発と授業実践におけるねらいと留意点

主体的な1人学び（個別最適）と対話的な学び（協働性）との間に親和性の高い往還を創出することをねらいとした。単元開発と授業実践においては、①単元全体で追究する大テーマの設定、

②学び順の自己調整(教材パッケージ、学習計画表)、③学習形態の自己調整、④自作揭示資料の工夫(対話を生み出す仕掛け:共同注視とチャットの誘発、内容の再構築と言語化を促す余白)、⑤机間指導の充実、⑥ガイダンス機能の充実、⑦「社会科自由進度教室」の設営(座席配置、揭示資料等)、⑧観察と意識調査による変容分析、に留意した。

## (2) 学習の流れと生徒の様子

単元は8時間構成。学習の流れは「ガイダンス実施と大テーマ提示『なぜ日本列島に律令国家が誕生したのか』→学習計画表作成(個人)→ワークシート学習(チェックテスト含む)→まとめレポート作成→まとめレポート発表→単元全体の要点整理」の順で実施した。

進度を調整しながら1人でじっくりと取り組む生徒、必要に応じて協力し合う生徒、揭示資料の前で対話しながら大テーマについて考える様子などが認められた。また、東アジア情勢と内政との関連から考えを深めた生徒、歴史的事象から人間の思考様式の普遍性に着目した生徒もいた。最終的には、9割以上の生徒が「律令国家の特徴」「天皇に権力が集中した理由」などに言及しながら、自分の言葉でしっかりとレポートを完成させた。

## 3 | 成果と課題、今後の展望

### (1) 成果

「自分のペースで進めたい」「話し合いたい」「先生に相談したい」などのニーズに応え得る単元内自由進度学習は、学びに向かう生徒の姿や意識面に大きな変容を生み出した。例えば、学習意欲や集中力の高まり、学び方を工夫したり進度を調整したりしようとする態度、自然な対話の発現、言語活用能力の向上などの他、家庭学習の質的な向上が認められたことも挙げられる。事実、事後調査では9割以上の生徒が「他の単元でもやりたい」「やりがいをもてる」「集中できる」「協力できて楽しい」と肯定的に受け止めていた。

### (2) 課題

コンピテンシーベースである単元内自由進度学習の実効性や有用性は認められた。しかし、「学力の伸び」に関する生徒の意識傾向は「テストの得点上昇」「覚えた・解けた」に依然偏っている。この溝をいかに埋めていくか、また、知識面(コンテンツ)の定着をいかに保障するかも重要になってくる。既存の指導法や支援の価値を改めて見直すとともに、家庭学習との接続の在り方などについても検討していきたい。

### (3) 今後の展望

本実践の成果として次の点を補足する。①不登校傾向の生徒「休んでいても自分の進めたいところから自分のペースでやれてとても良かった」②多動傾向の強い生徒「じっと座っているのが苦手なのですごくありがたい」③日本語が母語ではない生徒「タブレット翻訳で進められるのでやりやすい」など、意図しない部分での反応が顕著であった。不登校生徒の学習支援やインクルーシブ教育の観点から、今後も実践と検証を継続し、単元内自由進度学習の新たな有用性について探っていきたい。





中学校・奨励賞